

## 地域社会のありよう／あり方を様々な視点から考える

Keywords : 地域社会(コミュニティ)、メディア、ガバナンス

### ◆ これまでの経験と研究

生まれは茨城県勝田市(現ひたちなか市)。数年一度訪問しますが、周囲の景色はほとんど変わらないところ。育ったのは東京西部にある多摩ニュータウンで、それまで遊んでいた山や川が造成され、遊べなくなり、そこに団地「群」が建ち並ぶという「変化」を見たり感じたりしていました。自治会長に「こんなところで野球をやるな！」とよく追い回されていたのもよい思い出です。今になってふりかえると、それらの経験が都市や地域社会への関心をうみ育てていったのかなあと感じたりします。

「三つ子の魂百まで」なのでしょう、流転？の人生を歩みます。高校の途中まで文系希望でしたが、暗記科目が苦手な理転し、またニュータウン→都市計画の連想もあってか、学部は土木工学科を(結果的に)進みました。その後、社会(と経済)への関心が強くなり、修士課程では(都市)経済学を、もう少し都市や地域を広い視点から考えたいと思うようになり、博士課程では(都市)社会学を主に学んできました。そして、「問題解決のプロセスを現場で学ぼう」と考え、修了後はマーケティングのリーサー・コンサル会社に就職・・・という経歴です。↑

### ■ 調査・研究テーマ

「国際移動から売場提案まで」、要は「何でも屋」ですが、近年は次の4テーマを主に進めています。

#### 1. (被災)コミュニティの諸相と変容(文献等A)

2011年の東日本大震災発災時に福島県いわき市に住んでいたこともあり、被災地に関する研究に従事するようになりました。

- ①原発事故により避難した／している双葉郡楢葉町・富岡町を対象に、避難指示解除後の共同性はどうか(時間と空間による分化)。
- ②バリ島のアグン山噴火からの避難に重要な役割を果たした住民組織(バンジャール)が、ふだんどのよ

社会・マスメディア系専攻  
地域社会研究室 准教授

まつもと みちまさ  
松本 行真

matsu@socio.kindai.ac.jp



<https://researchmap.jp/read0139275/>

<http://tohokurban.web.fc2.com/>

↓ いろいろと(今でも)悩んだり、本を読んだり、調査のフィールドに出かけ、論文を書いたりしていますが、ずっと考えているのは「なぜ人はそこに住むのか」という問題です。ただそれを「解明」するだけでなく、どう「解決」すればよいのかが、常に頭の中にあります。なので、そんな経緯をたどっているのだと、自分に言い聞かせています。

うに住民生活に関わっていたのか(民衆知と日常／非日常の関係)。ネットワーク形成と社会関係資本の関係(いわき市沼ノ内と比較)の視点で検討。

#### 2. 安全・安心の社会実装の論理と倫理(文献等B)

今もいわき市沿岸部の復興まちづくりに関わっていて、月の三分の一近く滞在しています。

- ①津波で被災したいわき市平豊間地区、四倉地区において、公・共・私における連携、協働のありよう／あり方を「決め方の論理と規準」の視点から検討。
- ②平時(ふだん)と有事(災害時)を接続する空間・場

所論の構築。その応用としてのコミュニティ防災論構築への検討(①との関連)。

立圏を拡大するか視点で検討。また、被災地におけるシステム構築の可能性は？

### 3. 地域経済の自立／自律化(文献等C)

「地方(経済)の自立」がずっと課題となっていますが、なかなか難しい問題です。ひと頃流行った「里山資本主義」にも通じます。

- ①マーケティングの論理と消費空間形成の関係から、人びとの消費ニーズが場所の空間化(結果としての画一化)を生み出すメカニズムの検討。
- ②住民組織による(一部)自立／自律した社会経済システムの可能性について、産地直売所×生産者×利用者の持続可能な関係性をどう構築するか、そして域内の他組織・他産業をどう巻き込んで自立／自

### 4. コミュニティ×メディア研究(文献等D)

2018年9月の北海道胆振東部地震を契機に道内のいろいろな人たちの協力を得ながら進めています。やはり三分の一近く、道内をウロウロしています。

- ①県域局／コミュニティ放送局の関係から、平時・有事におけるグローバル(県域)／ローカル(コミュニティ)メディアの関係と役割分担の視点で検討。
- ②コミュニティ放送局／住民組織について、平時におけるローカルメディアと住民組織の関係から、自助・共助・公助がどう形成されるか、特にメディア×コミュニティ⇄公・共・私空間の関係評価。

## ● 文献等(著書・論文・調査報告)

- A 1)『被災コミュニティの実相と変容』松本行真、御茶の水書房、2015年2月
- 2)『東日本大震災と被災・避難の生活記録』吉原直樹・仁平義明・松本行真編、六花出版、2015年3月
- 3)『東日本大震災と<復興>の生活記録』吉原直樹・似田貝香門・松本行真編、六花出版、2017年3月
- B 1)「津波被災地域における復興まちづくりに向けた「連携」の現状と課題」松本行真、『関東都市学会年報』17、19-27、2016年3月
- 2)「住民同士の関係が津波避難に与える影響—いわき市平沼ノ内を事例に」班目佳小里・松本行真・杉山武史、『日本都市学会年報』51、285-294、2018年5月
- C 1)「都市と相互作用の世界」吉原・堀田編『交響する空間と場所 I: 開かれた都市空間』、松本行真、法政大学出版局、2015年2月
- 2)「原発事故被災地における新たな観光コンテンツ創出の可能性—双葉郡未来会議による「マーケティングの論理」の超克」松本行真、『東北都市学会年報』17・18、2018年10月
- D 1)「道内の「地域力」を平時から構築するコミュニティ放送(地域)局」、松本行真、JCBA北海道地区協議会総会・配付資料、2019年5月

## ▲ 趣味

雑談、(ものすごく辛い)カレー、旅行

## ◆ ゼミの宣伝等

関わり方を強制するわけではありませんが、「徹底的に何かに取り組みたい」人を特に歓迎します。「松」コースでは、どこかのフィールドに複数年関わり、その成果を学会で報告・論文投稿してもらいます。そのプロセスで、就職時に求められる「コミュニケーション力・主体性・チャレンジ精神・協調性・誠実性」は確実に得られます。

あとは雑談力？が身についたり、辛いのにやたら強くなるかもしれません。